

加越国境城跡群及び道の位置(天正12年頃)

城跡群は広範囲に分布しているが、金沢市域には小原越の切山・松根、二俣越の高峠・荒山、田近越の朝日山の各城跡が所在している。

城跡を比較すると、推定佐々方の城跡は規模が大きく、高度な縄張り技術を駆使しているのに対して、前田方の城跡は規模で劣るものが多いといえる。秀吉は、成政が山(加越国境付近か)を占拠したからといって、軽率な行動は慎むように利家に厳命している。約400年の時を超えて現在に残された城跡群の構造が、すでに味方がなく孤立した成政と秀吉の援軍を待つ利家の政治的状況を示している可能性が考えられる。



おはらこえ 小原越

小原越は金沢市吉原町付近で北国街道から分岐し、尾根道やその脇を通り、小矢部市の五郎丸・末友にいたる脇街道である。これまで小原越と伝わってきた道筋は、現道や作業道に姿を変えた道筋やそれらに隣接して残っている掘り割り状の遺構を指していた。しかし、今回の調査によって、元々の小原越は尾根筋を通過していた可能性が高くなり、また小原越の大まかな変遷が想定可能となった。

尾根筋(切山城跡-松根城跡間)



幅1.5m前後の道跡2条

尾根筋(切山城跡付近)



幅0.7m程の道跡

尾根下の平坦地(松根城跡付近)



幅1.6m程の道跡



国史跡	加越国境城跡群及び道
指定の名称	加越国境城跡群及び道 切山城跡 松根城跡 小原越
指定年月日	平成27年10月7日
所在地	金沢市松根町レ5番ほか
指定面積	116,131.04㎡ (金沢市114,800.37㎡、小矢部市1,330.67㎡)
所有者	個人、企業、金沢市、小矢部市
管理団体	金沢市、小矢部市

【注意事項】
 ■ 史跡内には滑りやすい箇所がありますのでご注意ください。
 ■ 史跡内での喫煙など火気の使用はご遠慮ください。
 ■ ごみは各自お持ち帰りください。

【協力】小矢部市教育委員会
【編集・発行】金沢市文化財保護課
 石川県金沢市広坂1-1-1 TEL076(220)2469
 平成28年7月発行

松根城跡

切山城跡
松根城跡
小原越

加越国境城跡群及び道

国史跡



前田利家

佐々成政

本能寺の変から2年後の天正12年(1584)3月、織田信長亡き後の天下統一へ向け、羽柴(後の豊臣)秀吉と信長の次男である織田信雄・徳川家康連合軍が尾張(現在の愛知県)の小牧・長久手で争った。この小牧・長久手の合戦の影響は各地に波及し、北陸の地においても、反秀吉へと方針転換した越中の佐々成政が、同年8月に秀吉方である前田利家家臣の村井長頼が守る朝日山城を攻撃する。これは失敗に終わるが、この後末森城(宝達志水町)を攻撃し、金沢城から前田利家軍が遠征する事態を迎えるのである。加越国境城跡群及び道は、その争乱に際し、国境付近の道を封鎖するために対峙して築造された城跡群の事であり、前田利家と佐々成政の戦いを今に伝えている。翌年、関白となった秀吉軍の北陸遠征によって、成政は降伏する。この後、秀吉の天下統一が実現するのである。

金沢市

原画作成：宮下英樹

横堀・溝



横堀の底に岩盤を掘削した幅約40cm、深さ約30cmの溝が見つかった。柵などの痕跡か。

横堀断面(現作業道沿いの壁面)



小原越を切断していたと推定できる、幅約3m、深さ約1.1mの堀跡。

なまりたま
鉛玉(弾丸)



主郭檜台整地土直上出土。分析によって、タイのソントー鉱山産の鉛を使用していることがわかっている。

まつねしょうあと 松根城跡

松根城跡は加賀と越中の境となる砺波山丘陵の最高所に位置し、東西約140m、南北約440mの規模で、門跡や道跡等が発見されている。西端の幅25mの大堀切によって尾根上の道跡(小原越)が切断されており、小原越を戦時封鎖した可能性が考えられる。



よこぼり
横堀



このような横堀が城の南側に残っている。廃城後は小原越として使われた。

どるい
土塁上の柵・堀跡



土塁上の柱穴検出状況。径15~20cmの穴が30~40cm間隔で並んでいる。

しゅかくやくらだい
主郭檜台



建物の跡はみつからなかったが、焼土が多くみつかり、鉄砲玉が出土している。



虎口の門跡



建物の土台と考えられる岩盤ブロックを確認。柱間約2×1.3mで、周辺から16世紀後葉の土師器皿や鉄釘が出土している。

きりやましょうあと 切山城跡

切山城跡は、東西約200m、南北250mの規模で、発掘調査により門跡や、タイのソントー鉱山産の鉛で作られた鉄砲玉等が発見されている。東端の横堀の規模が大きく、越中側からの攻撃に備えて築城された城跡である可能性が高い。



至松根城

横堀



このような横堀が城全体を囲っている。

おおほりきり
大堀切



幅約14m、深さ2.6m以上の堀底及び高さ約2.5m、幅5mの畝状遺構を1基確認。この堀切によって、この上を小原越が通過することはなくなった。

うまだしこくち
馬出虎口



門跡付近で帯状の岩盤ブロックを確認、門跡かは不明。

主郭虎口の門跡



建物の土台と考えられる礎石を確認。柱間約2.3m四方が推定される。

大堀切に切られた小原越



大堀切で切断された小原越跡を2条確認。山城が軍事的に道路を切断した初めての事例で、小原越を戦時封鎖した。

大堀切の中の畝堀



横堀の底に岩盤を掘削した幅約40cm、深さ約30cmの溝が見つかった。大堀切の底に畝と堀が作られており、横移動の阻害を企図したものといえる。